

研 修 名 乳児保育・教育

令和元年 10月3日(木) 9:45~12:15

講 演 「乳児保育・教育の現状と課題」

講 師 非営利団体コドモノミカタ代表

乳幼児教育実践研究科

井桁 容子 氏

1 講演要旨

1) プロセスの質とは

身体、認知、社会、文化、感情に関わる子どもの日々の経験の質

関わりの質⇒スタッフと子どもの関わり 子どもと周りの環境との関わり

子どもと親の関わり スタッフと親の関わり スタッフ同士の関わり

- ・環境で育ちが違う 保育者がどんな人間観をもっているかで環境が変わる
- ・子どもの育ちを保護者にどう伝えるか⇒仲間同士で補うことでプロセスの質が高まる
- ・保護者は保育者が子どもを丸ごと包んでもらっているとわかると全部わかってもらえていると思える

保育者の**表現愛**（子どもがいろんなことをやった時に愛を持ってみる事）の**まなざし**が子ども達にも感染し、友だちの行為や遊びを表現愛で見て、あそびを模倣したくなる

友だちの遊びから学ぶことで成長

友だちを見ながら自分の生きるスキルを育てる⇒仲間のいる環境

友だちの行為をどのように見るかは保育者・教師の言葉やまなざしで決まる

- ・子どもの自由を保障する
- ・本当に不安な時だけそばにいる
- ・子ども一人一人の得意分野を見つける
- ・自ら考えて価値を生み出す発想力

見つける事ができる保育士

子どもは・・・一人ひとり生まれながらに主体的に生きる力がある

保育士は・・・子どものいい所をみつけて応援する仕事

人間の面白さに出会えるところが保育士の喜び

枠にとらわれない応用力と柔軟性が大切

2) 自発的なあそび（内発的動機付け）

その子どものモノの見方、とらえ方、感じ方がよく表れている

⇒**子どもの理解につながる**⇒子どもの遊ぶ様子を丁寧に「善く観る」大人の存在が重要

新保育指針のキーワードが意味するもの

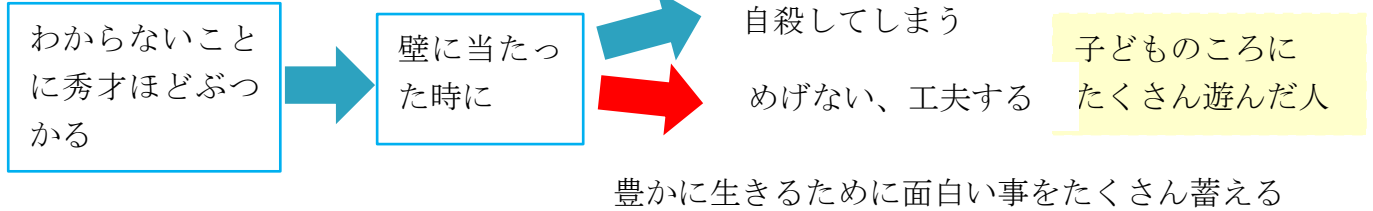
温かく、受容的、応答的に関わる（人として、子ども達、保護者にも）

⇒安心して自分を表現し、表現したことにいつも応じてもらえるという信頼

⇒**のびやかでしなやかな**心の育ちの保障がなければ育ちたい意欲は表現されない

言葉がけにはその人の子ども観、保育観、人間観が見えてくる

自発的に環境から学ぶ遊びの意味



ジェームズ・ヘックマン（経済学者）の研究が証明したこと

発達早期段階に**非認知的能力**が培われる

乳幼児期に質の高い保育・教育の重要性

文科省が出した「学力」への考え方

コンピテンシー・ベースの学力論、アクティブラーニング

（問題の発見や解決に向けて主体的・協働的の学ぶ学習、導入の検討）

＜能力の三つの柱＞

何を知っているか、何ができるか⇒**認知的能力、個別の知識や技能**

知っていること・できることをどう使うか⇒**思考力・判断力・表現力**

どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか

⇒**主体性・多様性・協調性・学びに向かう力・人間性など**

2 感想

研修を終え一番心に残った言葉は、保育士としてではなく人として子どもに対してどう接していますか？という問いかけでした。保育士という言葉がつくだけで、無理やりご飯を食べさせたり保育士の言う事を聞かせようとしたり、人としてしてはいけないことをしているのではないかと自分の保育を振り返り反省しました。集団の中で子どもをみていると、やはりみんな同じようにさせることが当たり前になってしまい、そこからはみ出してしまう子に対して、みんなと同じようにしないとイケないという勝手な思い込みから、ついつい言い方が強くなってしまったり、子ども一人一人の素敵な所を見つけられていない部分がたくさんあるのだと気づかされました。ビデオを見せていただくと、0歳児からの継続的な記録の様子がよくわかりその時々の子どもの育ちが成長とともにつながっていることがわかりました。そのそばでいつも温かく見守ってくれている保育者の姿、保育者の言う事を聞かせるのではなく、静かに待ったり、子どもの気持ちを代弁したり、応答的な関わり方などがとても印象的でした。トラブルがあった時に、「ダメ！やめて。」「ごめんなさいは？」と謝らせることですぐに解決をしようとするのは大人が手早く保育を進めるための保育だと言われその通りだと思いました。子ども一人一人には主体性があり、それぞれに思いが強くあります。その気持ちを受け止め、言葉にできないもどかしい気持ちを代弁したり、その代弁した言葉が子どもの気持ちにぴたり合う瞬間を日々の保育で感じられるように、子ども一人一人に向き合っていきたいと思いました。保育は経験を積みば積むほど勝手な思い込みや妄想で保護者や子どもを見てしまいます。そうならないようにいつでも新しく自分を見る、新しい気持ちで子どもに接していけるように自分自身がリニューアルをし、専門性を高めていかななくてははいけません。子どもの素敵な個性を保育者がつぶしてしまわないように職員間で共通理解を求め、主体的な保育を進めていけたらと思いました。

ありがとうございました。

（記録 亀ヶ丘保育園 大江美代）